

第2次宍粟市総合計画後期基本計画・第2次総合戦略用語解説集(基本施策16-18)

基本 施策	用語	解説
16	学校園所パートナーシップ事業	保育所、幼稚園、認定こども園と小、中学校それぞれの節目における円滑な接続を図るための交流事業。
16	学校規模適正化	学校教育の目的や目標を実現するため、一定の集団規模の確保など教育条件の整備に向け、学校の規模や適正配置を図る施策。
16	関係者評価	幼稚園、保育所、こども園の関係者(保護者や地域住民等)により構成する評価委員会が、行事見学や園・所だよりなどの広報、保護者アンケート結果に基づき園・所の運営状況を評価するとともに、改善に意見を述べること。
16	第三者評価	自己評価、関係者評価結果等を基に運営全般について公正・中立な第三者機関が専門的・客観的な立場から評価を行うこと。
16	認定こども園	幼稚園、保育所等のうち、「保護者が働いている、いないに関わらず、就学前の子どもに幼児教育・保育を一体的に提供する機能」「すべての子育て家庭を対象に、地域における子育て支援を行う機能」をもつ施設。
16	木育	木の良さや文化、利用することの意義、森林が持つ役割や環境のことなど、木や森林について、知る・学ぶ・体験するなど関わりを深めていくこと。
16	木育インストラクター	木育の意義や役割を理解し、森林・林業、木材、環境についてわかりやすく伝える指導者。
16	幼保一元化	少子化の進行、育児サービスの多様化に伴って生じている幼稚園と保育所の抱える問題点を解決すべく、幼稚園と保育所の一元化を図る政策。
16	加配	法律で定められている最低配置基準より多く、保育士や教職員等を配置すること。
17	ALT	Assistant Language Teacherの略。外国語を母国語とし、小学校や中学校、高等学校で生徒の英語発音や国際理解の向上を手助けする外国語指導助手。
17	ICT	Information and Communications Technologyの略。情報通信技術。情報処理や情報通信分野の関連技術の総称。

第2次宍粟市総合計画後期基本計画・第2次総合戦略用語解説集(基本施策16-18)

基本 施策	用語	解説
17	イングリッシュコーディネーター	英語指導の経験が豊かなネイティブ・スピーカーで、研究会等で教員に対して指導力向上のための助言を行うほか、幼稚園・保育所・認定こども園の英語体験活動にも参加する指導員。
17	オープンスクール	入学を検討している生徒に対して校舎を開放し、学校への理解を深めてもらうためのイベント。
17	学校生き活きプロジェクト	学校がそれぞれの課題や運営ビジョンを基に、自主的・主体的に取り組む特色ある教育活動を支援し、子どもたちに「生きる力」を育むとともに、「ふるさと宍粟を愛する」次代を担う市民の育成をめざすことを目的に実施している市独自事業。 各学校が、自校の課題分析等をもとに策定した学校づくりのビジョンを基に当該年度の運営計画を立て、その計画に対して市教委がその内容等を精査し、必要な予算措置等の支援を講じていく。
17	学力向上グランドルール	学力向上検討委員会が、市内すべての学校における学力向上の取組の充実・発展をめざして提言している事例集の名称。
17	キャリア・パスポート	児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたツール。
17	キャリアノート	児童・生徒が、これまでの成長の過程を書き込みながら、現在の自分自身を見つめ、将来働いてみたい仕事や生き方について考えることを補助するツール。
17	コミュニティ・スクール	学校と保護者や地域住民が共に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させる仕組み。
17	しーたんチャレンジ	授業や休み時間の過ごし方の改善などを通して、体力・運動能力の向上と運動好きの子どもを増やし、生涯にわたって運動・スポーツに親しむための基礎づくりをめざすことを目的に平成25年度から開始された本市独自事業。
17	しそう学校サポートチーム	いじめや不登校等の問題行動に関する相談・支援体制の充実を図るため、さまざまな専門性を有する相談員等が連携して学校等への多面的な支援を行う市独自の事業。チームのメンバーは、青少年育成センター職員や適応教室指導員、児童生徒支援スーパーバイザーやスクールソーシャルワーカー、生徒指導担当指導主事等で構成される。

第2次宍粟市総合計画後期基本計画・第2次総合戦略用語解説集(基本施策16-18)

基本 施策	用語	解説
17	宍粟の森林探検隊	小4児童を対象に、地域の特性や暮らしについての学びを深め、郷土への誇りや愛情、愛着を育む事業。
17	小中一貫教育	小学校と中学校の課程を9年間一貫性のあるものにした学校制度。
17	スクールカウンセラー	教育機関において主に児童・生徒の心理的な相談業務を行う専門職。
17	スクールサポートスタッフ	教師の負担軽減を図るため、学習プリント等の印刷などを教師に代わって行うサポートスタッフ。
17	スクールソーシャルワーカー	児童・生徒の日常生活や家庭環境による問題を、関係者などに働きかけ解決を図る専門職。
17	トライやる・ウィーク(アクション)	中学生を対象に、一定期間の職場体験や福祉体験による地域の人々の関わりを通じて、生きる力を育む取り組み。
17	部活動指導員	教師の負担軽減を図るため、校長の監督を受け、部活動の技術指導や大会への引率等を行うスタッフ。
17	縦横連携	障がいのある児童の支援において、ライフステージに応じた切れ目のない支援(縦の支援)と保健、医療、福祉、保育、教育、就労支援等とも連携した地域支援体制(横の支援)を確立すること。
18	情報モラル	情報社会を生きるために必要な態度や考え方。
18	ソーシャルスキルトレーニング	対人関係や集団生活を営みやすくするための技能を養うこと。
18	ネットパトロール	児童・生徒のインターネット上での行動を見回りし、問題投稿に対して注意喚起を行うこと。
18	メディアリテラシー	メディア(新聞、雑誌、テレビ、インターネット等)からの情報を主体的に選択し、内容を分析・検討して活用したり、情報を発信したりできる能力のこと。